

関係者各位

平成 28 年 7 月 吉日

SESSION 東北

SESSION 東北セミナーのご案内

テーマ： 「いわゆる片麻痺は治るのか？」

～脳卒中後遺症という病態の新たな捉え方、難解な上肢治療も含めて～

講師：舟波 真一先生(株式会社バイニーアプローチセンター 東京銀座店 代表取締役)

内容：脳神経科学の発展に伴って、ニューロリハビリテーションの考え方は広がってきてはいるものの、実際のクライアントに汎化出来ていない状況が長く続いています。脳の解明は進んできましたが、今も片麻痺の臨床像は昔と大きく変わってはいません。いわゆる「麻痺」という状態に対して、どのように治療していいかわからず、「頑張っ立つ」ことや「頑張っ歩く」といったクライアントの意識や意欲の部分に頼らざるを得ない現在のリハビリテーションでは、片麻痺を変えることは難しいです。今までのリハビリアプローチによる限界ということではないでしょうか。そもそも、杖を持って歩くことが前提のような治療では、病前の歩行とは全く異なり、その杖歩行を学習してしまいます。杖歩行から、二足動歩行になった片麻痺者を見たことがありますか？脳卒中片麻痺患者の臨床像を作っているのは誰か？リハビリテーションで密に関わるセラピストの影響が大きいのではないでしょうか。今回は、最新の脳の機能代行のメカニズムを踏まえ、「運動麻痺」を新たに捉えなおします。そして、難解であるといわれる上肢治療も含め実際にどのように考えて治療展開をするのか、実技を含めて提示します。日本のリハビリテーション医療誕生から半世紀、今一度アプローチを再考しパラダイムシフトを起こすときです。

つきましては何かと多忙な時期ではございますが、万障繰り合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時:平成 28 年 8 月 21 日(日) 10:00～16:00

場所:東京エレクトロンホール宮城 602 室

受講費:通常：11,880 円 (税込み) 早割：9,720 円 (税込み)[7 月 31 日迄に申し込みの方]

懇親会：8 月 20 日 (土) 仙台駅周辺で開催予定。

出欠の記載をお願いします。(参加者には後日詳細メールを送信いたします。)

申し込み方法：下記ホームページか QR コードから申し込みください。

<http://session-therapist.jimdo.com/funami-touhoku/>



舟波 真一 先生 ご略歴紹介

<経歴>

平成2年4月 国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院 入学
平成5年3月 同専門学校 卒業
平成5年4月 新潟県立小出病院 入職
平成9年3月 同病院 退職
平成9年4月 諏訪赤十字病院 入職
平成15年3月 日本福祉大学大学院 博士前期課程(久保田競教室) 入学
平成16年3月 同大学院 博士前期課程 修了
平成25年9月 諏訪赤十字病院 退職
平成25年10月 バイニーアプローチセンター設立, 代表就任
平成27年3月5日 法人へ移行
株式会社バイニーアプローチセンター 設立 代表取締役就任
平成28年4月1日 株式会社バイニーアプローチセンター東京銀座店 出店
現在に至る
専門理学療法士ー神経系領域
人間環境情報修士

<著書 分担執筆>

運動の成り立ちとは何か 理学療法・作業療法の BiNI Approach , 文光堂
理学療法・作業療法のための 実践編 BiNI Approach 運動の成り立ちから導く, 治療をシンプルにする法則性, 文光堂
実践 MOOK 理学療法プラクティス 運動連鎖〜リンクする身体, 文光堂
臨床実践 動きのとらえ方 何を観るのかその思考と試行, 文光堂

舟波先生が開発した、関節や疾患に関わらずシンプルでありながら的確な変化を引き起こすためのバイニーアプローチ: BiNI Approach (Biomechanics and Neuroscience Integrative Approach) は身体運動学そのものを運動生成として捉え、バイオメカニクス(生体力学)の観点から観察・説明できる身体運動を、神経科学・発生学・非線形力学・運動器連結を含む構造・ヒトの左右特異性・感覚入力位置特異性などの観点と関連性を持たせながら統合的に解釈した「統合的運動生成概念」をベースにしております。